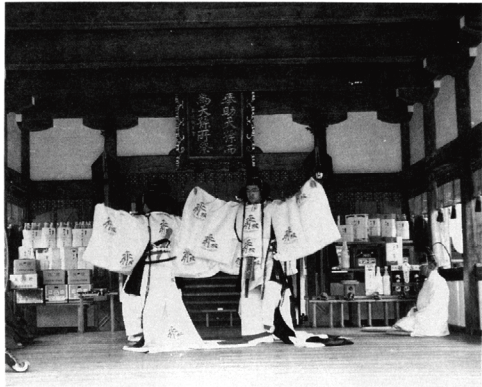


春季大祭齋行

皇室の弥栄と五穀豊穰を願い



桜前線が近づいている中、三月二十日より四月二日、存念が厳肅に齋行され、

四月一日、うらかな小春日の中、定刻十一時、正服に威儀を正した宮司以下神職及び奉仕員、参列者が大太鼓の合図とともに参進、厳肅に修職を受け本殿へ、拝託祈定の座へ、献饌、宮司一拝に始まり、齋饌、氏子会館併進の後、宮司が国家鎮護、五穀豊穰、氏子崇敬者の平穏無事と皇室を祈念する祝詞奏上、次に宗像大社氏子代表として、神興地区八並の古部源氏が奉斎詞を奏された。引き続き、神楽を奉納、先ず地元青年有志による玄海町無形文化財の主基地方「風俗舞」、次に十一単を身主生徒四名の奉仕による「浦安舞」が奏され、祭典を一段落とした。



祭典終了後、平成五年度の若布敷に際し、厳冬の玄界灘で若布を採取された奉仕者に対し、当社より感謝状と記念品が一人一人に贈呈された。

祭典終了後、平成五年度の若布敷に際し、厳冬の玄界灘で若布を採取された奉仕者に対し、当社より感謝状と記念品が一人一人に贈呈された。

平成五年度献て若布、採取者感謝状表彰者名
水島 経春 (神楽漁協) 永嶋 幸哉 () 吉岡 勝 (鐘崎漁協) 石橋 悟 () 広波 紀之 (福岡漁協) 田畑 辰馬 () 宮本 明男 (天島漁協) 西地 進一 () 大井 勲美 (地島漁協) 中西 義政 () 関谷金太郎 ()

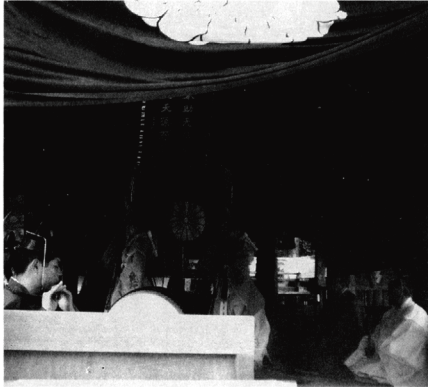
奉納剣道大会 玉砂利を蹴散らし熱戦
暖かな日射しにつつまれ四月三日(土)、午前九時より本殿境内にて奉納剣道大会が開かれた。

この大会は約四十年の歴史を持ち、奉納の神賑行事として福岡県剣道連盟宗像支部の主催で開催されてきた。宗像地区を中心として小学生から大学生まで約五百名が参加、団体戦で行われた。

尚、成績は次の通りである。
小学生一、二年男子 優勝 赤間西剣道教室 準優勝 日の里剣道教室 第三位 玄海少年剣道教室
小学生三、四年男子 優勝 赤間西剣道教室 準優勝 日の里剣道教室 第三位 玄海少年剣道教室
小学生五、六年男子 優勝 赤間西剣道教室 準優勝 玄海少年剣道教室 第三位 岬少年剣道教室
中学生男子 優勝 赤間西剣道教室 準優勝 玄海少年剣道教室 第三位 岬少年剣道教室
中学生女子 優勝 赤間西剣道教室 準優勝 日の里中学校 第三位 河東中学校 A
高校生 優勝 福岡教育大 準優勝 宗像高校 A 第三位 光陵高校 A

沖・中両宮春季大祭

新緑萌える春の大島



境内の桜も咲き誇り、陽春の暖かい日差しに包ま

が盛大に執行行われた。両宮の祭典は、大島の生活基盤が漁業であることから、漁休となる旧暦三月十五日に齋行して、本年は開月の関係で例年より少し早目の齋行となった。

午後二時、目原奉賛会長外役員参列のもと地主祭を齋行、いよいよ大祭の諸儀が始まった。

同五時、揖所にて太田権宮司以下二名の神職が奉仕し、沖津宮春季大祭宵宮祭を、中津宮に於ても兼父宮司以下二名の神職の奉仕により中津宮春季大祭宵宮祭を奉賛員参列のもと各々齋行、明日の大祭が無事執行されるよう祈念された。

大祭当日の六日、絶好の祭典日和に恵まれた。先ず午前八時二十分、宮崎地区に鎮座する船越神社に於て宮本副宮司外元の氏子多数が参列する中、海上安全、漁業繁栄が祈念された。

同九時、沖津宮遥拝所に於て宮司以下三名の神職と巫女三名の奉仕により、目原奉賛会長、宗像大社氏子百川副会長外氏子多数の参列のもと、沖津宮春季大祭を齋行、生憎春霞のため沖ノ島を望むことはできなかったが、遥か沖合の沖津宮へ敬虔な祈りが捧げられた。

同九時三十分、太田権宮司以下二名の神職奉仕により、御嶽宮祭を齋行、奉賛員 J.A.むなかた大島支所長を始め氏子多数が参列した。

午前十一時、中津宮に於て島内外の参列者百数十名が参列する中、中津宮春季大祭を齋行、定期別館前庭に列立した奉賛員以下神職、船越奉賛使、巫女、奉賛員等が参列者から拝殿へと参進、所定の座に着座し祭典を開始した。

祭典は修職の後、宮司が国家、皇室の弥栄と国民の平穏、更に海上安全、漁業繁栄を祈念して祝詞を奏し、続いて船越奉賛使が氏子を代表して奉斎詞を奏上、



次いで巫女の浦安舞が優雅に奏された。

下神職が玉串を拝礼、続いて目原奉賛会長、宗像大社氏子会寺崎副会長、河野宗徳郡市、杉田村長を始め各界各層の代表約四十名が玉串を奉賛、

大神の御加護に感謝し次々大拝し、祭典は滞りなく終了した。

続いて奉納の表形式に移り、国旗掲揚ポールを奉納した。また、連綿と助民と、職場掲揚ポール一対を奉納した。佐藤清一氏に、宮司より感謝状と記念品が贈呈された。

その後、今では事ある毎に声がかかり、引張りだこ

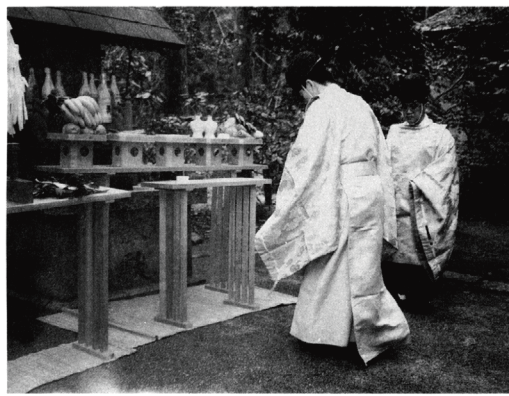
となった「おおま太鼓」の奉納演奏が行われ、境内に勇壮な太鼓の音が響き渡り、参拝者から盛んな拍手を受けていた。

奉納演奏の後、照海殿に席を移し、宗像大社に参拝した。席上宮司が大祭参列のお礼を兼ねて挨拶、遠藤謙長の音頭により乾盃、大祭参列者は和やかな一刻を過ごした。

宗像支部長の挨拶、矢野審一氏に宗像大社に参拝した。宗像支部長の挨拶、矢野審一氏に宗像大社に参拝した。

松尾神社祭齋行

新酒の芳酒を感謝し



正月の善男善女で賑わった御社も静寂を迎え、陽春の光を浴びて境内の常緑樹も春の季節となった。去る三月十九日、御神木「榎の木」の玉垣横に、酒の神様として鎮座する、末社松尾神社に於て、北筑社氏組合主催による酒造奉賛祭が厳粛に斎行された。この祭りは去年の十二月に同社氏組合による醸造安全祈願祭と同社氏神前で執り行い、各酒造奉賛社に於て新酒の醸造に、長年の経験と秀たれた技術をもつて友社氏の人達が厳業の一冬を、酒蔵の仕込と寝食を共にし、誠心誠意をこめて育成した新酒を神前に供

え、感謝の意を表す祭りである。昔より「仕込酒は生き物、杜氏の腕次第で味が決まる」と言われ、経験と技術だけでなく我々を育てると同様慈愛の心をもつて酒造りをしなくてはコクのある吟醸酒は出来ないと、各社氏は自信と誇りをもつて取り組んでいる。近年この北筑社氏組合に所属する杜氏の人員は減少の一途をたどり、春の祭典には七人の参列しかなく、昭和四十年代には北筑社氏組合と、四十年の杜氏がいたと、当時を知る古参の人の話である。原因は後継者不足と酒蔵の減少により酒造会社は撤退と合理化が挙げられる。酒造りは冬場が最適の時期であるが、酒蔵は逆に高温

多湿で、二十四時間の監視体制と専任作業時間は約三ヶ月と短く、一人前の杜氏になるには最低でも四年、五年の修行が必要であるが、若者に敬慕されている。現職の杜氏も高齢化が進み、本業は農業、漁業従事者が多数であるが、酒造歴三十四年女であり、醸造家としての誇りと情熱は大変なものである。祭典終了後、当天社齋館に於て行われた直会には、各自が仕込んだ新酒を吟味しながら、酒造技術の情報交換に話はずみ、和気あいあいとした雰囲気の中で

しいことに、宗像大社がどういう神社なのか、まったく知りませんでした。例えば、御祭神のことや、沖津宮、中津宮などのお社があること、また、巫女という職業に対して、何をすべきなのか、といった仕事をしているのか、ただ漠然としたイメージしかなかった。今年四月一日から巫女として宗像大社に奉職することになりました山下理恵です。私は、宗像大社について、小さい頃、学校の遠足や放生会などで何度か来たことがあったので、なじみのあるところだと思っていました。しかし恥ずかしく思っていました。就職の際に住民の皆様の御協力、又宗像大社より新しい看板を御寄付いただき、ありがとうございました。この文面をお借りして心から感謝致します。

平成五年度の当天社予算案審議を中心とする責任役員会議が、去る三月十七日午前十一時より当天社勸使館に於て、出光昭介(代理 渡辺茂太郎)、水倉三郎(代理 國分敏光)、布江弥之助(代理 岡田太郎、河野野人)、各自が古賀芳人各責任役員と、当社より兼父宮

責任役員会議開催 平成五年度予算について審議 以下関係役員が出席して開催された。会議は、開会の辞の後、兼父宮より挨拶、引き続き平成五年度の宗像大社予算案審議に入った。冒頭予算案の基本的姿勢が示され、パウル代理施設後の社会状況に対応できるような編成と、当社より兼父宮

は、処理水量60t、放流水質BOD10ppm、予備槽を3槽備えた最新の浄化設備となる。良好な水質処理を行い、環境保全に努力している状況等を報告された。海洋分局の中では、中津宮奉斎交代の報告、東権務本局へ、高岡権務官四月より奉務、文化財管理事務局では、沖ノ島神社の土器、復元事業計画等が報告され、正すと責任役員会は無事終了した。

三月十一日 出光千葉海上輸送協力会 十一名参拝 宗像菊友役員会 三月十五日 月次祭 (嶽新出光) 月次祭 五名参拝 社奉斎交代 社奉斎交代 行 福岡植物園研究員井幹 福、東京大学大場助教 授オエリワビ調査 の為沖島、渡島 三月十六日 北海漁油槽所 保善協力会 長岡潤住 紀氏八名参拝 有任公民館 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月十七日 宗像大社責任 役員会 三月十八日 宗像郡遺族会 役員会 三月十九日 松尾神社祭 役員会 三月二十日 皇霊殿遷葬式 三月二十三日 九州旅客鉄 道(東郷郷歌) 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月二十四日 宗像警察署 署長加藤隆慶氏新任挨拶 の為来社 三月二十五日 宗像大社氏 子会評議員会 三月二十九日 出光興産(株) 大阪支店 出光興産(株) 平信興氏並大坂出光会 会長植田啓介氏外一名 参拝 福岡県神戶市参事野上 忠久氏来社 三月三十日 地元総代並協 力会春奉斎祭準備奉 仕 三月三十一日 春奉斎宵 宮祭 出光興産(株) 情報システム 室 徳山計算センター 所長木本明氏外一名参 拝 出光石油信託(徳山工 場) エネルギ課長参拝 宗像大社 宗像大社 宗像警察署長大野正 昭氏新任挨拶の為来社 熊本県大市博物館 熊本 田学貞来社

新名称

宗像大社前駐在所



この度、駐在所の名称が 宗像大社前駐在所と新しくなりました。

各務変更の経緯については、昭和四十二年十一月四日に実施された、駐在所連絡協議会の際に、区長さん達から要請として行政区分が変更になっているが、駐在所名も変更する必要があるのではないかという質問を受けました。それと併せて、翌三年の協議会では、名称も具体的に「田島・宗像大社前」といった一つの候補が挙げられました。その後、本署と共に地域住民の方々が、一番分かりやすい場所、かつ駐在所のある場所(相対し)名称として、このことを重視し、約五年の歳月を経て、宗像大社前駐在所となったわけです。私も此処へ赴任して二年になりましたが、宗像大社前駐在所の初代駐在所員として、益々地域に溶け込み、今まで以上に職務に専念したいと思っております。最後に存りましたが、名

今年四月一日から巫女として宗像大社に奉職することになりました山下理恵です。私は、宗像大社について、小さい頃、学校の遠足や放生会などで何度か来たことがあったので、なじみのあるところだと思っていました。しかし恥ずかしく思っていました。就職の際に住民の皆様の御協力、又宗像大社より新しい看板を御寄付いただき、ありがとうございました。この文面をお借りして心から感謝致します。

平成五年度の当天社予算案審議を中心とする責任役員会議が、去る三月十七日午前十一時より当天社勸使館に於て、出光昭介(代理 渡辺茂太郎)、水倉三郎(代理 國分敏光)、布江弥之助(代理 岡田太郎、河野野人)、各自が古賀芳人各責任役員と、当社より兼父宮

責任役員会議開催 平成五年度予算について審議 以下関係役員が出席して開催された。会議は、開会の辞の後、兼父宮より挨拶、引き続き平成五年度の宗像大社予算案の基本的姿勢が示され、パウル代理施設後の社会状況に対応できるような編成と、当社より兼父宮

は、処理水量60t、放流水質BOD10ppm、予備槽を3槽備えた最新の浄化設備となる。良好な水質処理を行い、環境保全に努力している状況等を報告された。海洋分局の中では、中津宮奉斎交代の報告、東権務本局へ、高岡権務官四月より奉務、文化財管理事務局では、沖ノ島神社の土器、復元事業計画等が報告され、正すと責任役員会は無事終了した。

三月十一日 出光千葉海上輸送協力会 十一名参拝 宗像菊友役員会 三月十五日 月次祭 (嶽新出光) 月次祭 五名参拝 社奉斎交代 社奉斎交代 行 福岡植物園研究員井幹 福、東京大学大場助教 授オエリワビ調査 の為沖島、渡島 三月十六日 北海漁油槽所 保善協力会 長岡潤住 紀氏八名参拝 有任公民館 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月十七日 宗像大社責任 役員会 三月十八日 宗像郡遺族会 役員会 三月十九日 松尾神社祭 役員会 三月二十日 皇霊殿遷葬式 三月二十三日 九州旅客鉄 道(東郷郷歌) 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月二十四日 宗像警察署 署長加藤隆慶氏新任挨拶 の為来社 三月二十五日 宗像大社氏 子会評議員会 三月二十九日 出光興産(株) 大阪支店 出光興産(株) 平信興氏並大坂出光会 会長植田啓介氏外一名 参拝 福岡県神戶市参事野上 忠久氏来社 三月三十日 地元総代並協 力会春奉斎祭準備奉 仕 三月三十一日 春奉斎宵 宮祭 出光興産(株) 情報システム 室 徳山計算センター 所長木本明氏外一名参 拝 出光石油信託(徳山工 場) エネルギ課長参拝 宗像大社 宗像大社 宗像警察署長大野正 昭氏新任挨拶の為来社 熊本県大市博物館 熊本 田学貞来社

三月十一日 出光千葉海上輸送協力会 十一名参拝 宗像菊友役員会 三月十五日 月次祭 (嶽新出光) 月次祭 五名参拝 社奉斎交代 社奉斎交代 行 福岡植物園研究員井幹 福、東京大学大場助教 授オエリワビ調査 の為沖島、渡島 三月十六日 北海漁油槽所 保善協力会 長岡潤住 紀氏八名参拝 有任公民館 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月十七日 宗像大社責任 役員会 三月十八日 宗像郡遺族会 役員会 三月十九日 松尾神社祭 役員会 三月二十日 皇霊殿遷葬式 三月二十三日 九州旅客鉄 道(東郷郷歌) 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月二十四日 宗像警察署 署長加藤隆慶氏新任挨拶 の為来社 三月二十五日 宗像大社氏 子会評議員会 三月二十九日 出光興産(株) 大阪支店 出光興産(株) 平信興氏並大坂出光会 会長植田啓介氏外一名 参拝 福岡県神戶市参事野上 忠久氏来社 三月三十日 地元総代並協 力会春奉斎祭準備奉 仕 三月三十一日 春奉斎宵 宮祭 出光興産(株) 情報システム 室 徳山計算センター 所長木本明氏外一名参 拝 出光石油信託(徳山工 場) エネルギ課長参拝 宗像大社 宗像大社 宗像警察署長大野正 昭氏新任挨拶の為来社 熊本県大市博物館 熊本 田学貞来社

三月十一日 出光千葉海上輸送協力会 十一名参拝 宗像菊友役員会 三月十五日 月次祭 (嶽新出光) 月次祭 五名参拝 社奉斎交代 社奉斎交代 行 福岡植物園研究員井幹 福、東京大学大場助教 授オエリワビ調査 の為沖島、渡島 三月十六日 北海漁油槽所 保善協力会 長岡潤住 紀氏八名参拝 有任公民館 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月十七日 宗像大社責任 役員会 三月十八日 宗像郡遺族会 役員会 三月十九日 松尾神社祭 役員会 三月二十日 皇霊殿遷葬式 三月二十三日 九州旅客鉄 道(東郷郷歌) 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月二十四日 宗像警察署 署長加藤隆慶氏新任挨拶 の為来社 三月二十五日 宗像大社氏 子会評議員会 三月二十九日 出光興産(株) 大阪支店 出光興産(株) 平信興氏並大坂出光会 会長植田啓介氏外一名 参拝 福岡県神戶市参事野上 忠久氏来社 三月三十日 地元総代並協 力会春奉斎祭準備奉 仕 三月三十一日 春奉斎宵 宮祭 出光興産(株) 情報システム 室 徳山計算センター 所長木本明氏外一名参 拝 出光石油信託(徳山工 場) エネルギ課長参拝 宗像大社 宗像大社 宗像警察署長大野正 昭氏新任挨拶の為来社 熊本県大市博物館 熊本 田学貞来社

新人紹介

山下理恵



今年四月一日から巫女として宗像大社に奉職することになりました山下理恵です。私は、宗像大社について、小さい頃、学校の遠足や放生会などで何度か来たことがあったので、なじみのあるところだと思っていました。しかし恥ずかしく思っていました。就職の際に住民の皆様の御協力、又宗像大社より新しい看板を御寄付いただき、ありがとうございました。この文面をお借りして心から感謝致します。

平成五年度の当天社予算案審議を中心とする責任役員会議が、去る三月十七日午前十一時より当天社勸使館に於て、出光昭介(代理 渡辺茂太郎)、水倉三郎(代理 國分敏光)、布江弥之助(代理 岡田太郎、河野野人)、各自が古賀芳人各責任役員と、当社より兼父宮

責任役員会議開催 平成五年度予算について審議 以下関係役員が出席して開催された。会議は、開会の辞の後、兼父宮より挨拶、引き続き平成五年度の宗像大社予算案の基本的姿勢が示され、パウル代理施設後の社会状況に対応できるような編成と、当社より兼父宮

は、処理水量60t、放流水質BOD10ppm、予備槽を3槽備えた最新の浄化設備となる。良好な水質処理を行い、環境保全に努力している状況等を報告された。海洋分局の中では、中津宮奉斎交代の報告、東権務本局へ、高岡権務官四月より奉務、文化財管理事務局では、沖ノ島神社の土器、復元事業計画等が報告され、正すと責任役員会は無事終了した。

三月十一日 出光千葉海上輸送協力会 十一名参拝 宗像菊友役員会 三月十五日 月次祭 (嶽新出光) 月次祭 五名参拝 社奉斎交代 社奉斎交代 行 福岡植物園研究員井幹 福、東京大学大場助教 授オエリワビ調査 の為沖島、渡島 三月十六日 北海漁油槽所 保善協力会 長岡潤住 紀氏八名参拝 有任公民館 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月十七日 宗像大社責任 役員会 三月十八日 宗像郡遺族会 役員会 三月十九日 松尾神社祭 役員会 三月二十日 皇霊殿遷葬式 三月二十三日 九州旅客鉄 道(東郷郷歌) 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月二十四日 宗像警察署 署長加藤隆慶氏新任挨拶 の為来社 三月二十五日 宗像大社氏 子会評議員会 三月二十九日 出光興産(株) 大阪支店 出光興産(株) 平信興氏並大坂出光会 会長植田啓介氏外一名 参拝 福岡県神戶市参事野上 忠久氏来社 三月三十日 地元総代並協 力会春奉斎祭準備奉 仕 三月三十一日 春奉斎宵 宮祭 出光興産(株) 情報システム 室 徳山計算センター 所長木本明氏外一名参 拝 出光石油信託(徳山工 場) エネルギ課長参拝 宗像大社 宗像大社 宗像警察署長大野正 昭氏新任挨拶の為来社 熊本県大市博物館 熊本 田学貞来社

三月十一日 出光千葉海上輸送協力会 十一名参拝 宗像菊友役員会 三月十五日 月次祭 (嶽新出光) 月次祭 五名参拝 社奉斎交代 社奉斎交代 行 福岡植物園研究員井幹 福、東京大学大場助教 授オエリワビ調査 の為沖島、渡島 三月十六日 北海漁油槽所 保善協力会 長岡潤住 紀氏八名参拝 有任公民館 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月十七日 宗像大社責任 役員会 三月十八日 宗像郡遺族会 役員会 三月十九日 松尾神社祭 役員会 三月二十日 皇霊殿遷葬式 三月二十三日 九州旅客鉄 道(東郷郷歌) 長岡潤住 正之氏新任挨拶の為来 社 三月二十四日 宗像警察署 署長加藤隆慶氏新任挨拶 の為来社 三月二十五日 宗像大社氏 子会評議員会 三月二十九日 出光興産(株) 大阪支店 出光興産(株) 平信興氏並大坂出光会 会長植田啓介氏外一名 参拝 福岡県神戶市参事野上 忠久氏来社 三月三十日 地元総代並協 力会春奉斎祭準備奉 仕 三月三十一日 春奉斎宵 宮祭 出光興産(株) 情報システム 室 徳山計算センター 所長木本明氏外一名参 拝 出光石油信託(徳山工 場) エネルギ課長参拝 宗像大社 宗像大社 宗像警察署長大野正 昭氏新任挨拶の為来社 熊本県大市博物館 熊本 田学貞来社

上園明美



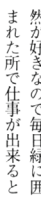
今年三月折尾高等学校を卒業し、宗像大社に勤めることになりました上園明美です。高校では家政科で食物や被服などを学びました。二年間女子テニス部でしたので気の合う友達も出来、思えば楽しかった思い出です。趣味は音楽鑑賞と読書です。村上龍や森下悠子などの小説が大好きです。小・中学校でバレーボールをやっていたので、運動も好きです。私が宗像大社を希望したのは、ほかの女性と違い、礼儀作法や神職としてのたしなみや身に身につくので、ま、巫女自習の期間ですが、今思えば学生の時はいろいろな意味で楽しかったです。

平成五年度の当天社予算案審議を中心とする責任役員会議が、去る三月十七日午前十一時より当天社勸使館に於て、出光昭介(代理 渡辺茂太郎)、水倉三郎(代理 國分敏光)、布江弥之助(代理 岡田太郎、河野野人)、各自が古賀芳人各責任役員と、当社より兼父宮

責任役員会議開催 平成五年度予算について審議 以下関係役員が出席して開催された。会議は、開会の辞の後、兼父宮より挨拶、引き続き平成五年度の宗像大社予算案の基本的姿勢が示され、パウル代理施設後の社会状況に対応できるような編成と、当社より兼父宮

は、処理水量60t、放流水質BOD10ppm、予備槽を3槽備えた最新の浄化設備となる。良好な水質処理を行い、環境保全に努力している状況等を報告された。海洋分局の中では、中津宮奉斎交代の報告、東権務本局へ、高岡権務官四月より奉務、文化財管理事務局では、沖ノ島神社の土器、復元事業計画等が報告され、正すと責任役員会は無事終了した。

斎藤晴美



今年三月に折尾高等学校を卒業し、宗像大社に勤めることになりました斎藤晴美です。高校では家政科で食物や被服などを学びました。二年間女子テニス部でしたので気の合う友達も出来、思えば楽しかった思い出です。趣味は音楽鑑賞と読書です。村上龍や森下悠子などの小説が大好きです。小・中学校でバレーボールをやっていたので、運動も好きです。私が宗像大社を希望したのは、ほかの女性と違い、礼儀作法や神職としてのたしなみや身に身につくので、ま、巫女自習の期間ですが、今思えば学生の時はいろいろな意味で楽しかったです。

平成五年度の当天社予算案審議を中心とする責任役員会議が、去る三月十七日午前十一時より当天社勸使館に於て、出光昭介(代理 渡辺茂太郎)、水倉三郎(代理 國分敏光)、布江弥之助(代理 岡田太郎、河野野人)、各自が古賀芳人各責任役員と、当社より兼父宮

責任役員会議開催 平成五年度予算について審議 以下関係役員が出席して開催された。会議は、開会の辞の後、兼父宮より挨拶、引き続き平成五年度の宗像大社予算案の基本的姿勢が示され、パウル代理施設後の社会状況に対応できるような編成と、当社より兼父宮

宗像大社歌会
俳句作品集 三六一

ひかりヶ丘 南 風生
切株に腰かけてみる兼好忌

福間 森 清
肩組んで歌ふ校歌も花の宴

藤 沢 井上 玄洋
羽繕ひして帰待つ川の鴨

福間 高橋辰次郎
暖冬に葉の花を見る寒節季

福岡中央 力丸 玄風
遠旅に耐えて老ゆ気の失せし春

田熊 力丸 一郎
日向ほこ極楽浄土の心地かな

自由ヶ丘 細川 桐子
亡き姑の年越へ糞ふ春化粧

福間 二宮 末子
春風に誘はれ芽を出す土筆坊

田熊 安部 ゆき
児等掃枝一団かける春の冷え

日の里 花田いつ枝
物種を時く坪の土たいら

津屋崎 井浦 良介
潮風と聞いて上がる桜前線



(続)



75

漂着 二話
いししいた



発泡スチロールの漂着

少し物騒な漂着物から。今年三月末ごろに、遠賀郡岡垣浜に長さ約一メートルの爆弾が漂着した。旧射爆場の浜である。長期間・海中に埋もれていたようで、付着している砂は黒く変色してこびりつき、ところどころに目撃がついて、弾頭部に信管らしい突起物があり、錆びついていて、尾翼も残っていた。最初は一部分しか出ていずはつきりしなかったが、波が洗い出して爆弾であることが分かった。四月三日には海岸を歩いていた人が警察に通報している。

四月四日、私は中西弘氏からその話を聞き、二人で現地へ行ってみた。岡垣の砂入川側から歩いて旧射爆場付近の漂着した爆弾のところまで歩いてみた。波打たぬ爪をピカピカに光るまで磨き上げ、逞しい羽搏きをして水しぶきを散らす開きの力強さを目を細めて喜ぶのが日課でもあった。或る夜、鳥小屋に入れ、厳重に監視していた筈の五斤程もある開きが無残にも野狐に喰い殺されたのである。憤慨する方ない利平は、忙しい日々の診療の余暇をみては、当時この地方に流行した開きの飼育に凝っていた。朝早く湧り清々しい谷間の真清水を掬ってきては、見事な色彩の艶々しい羽毛を一枚ずつ丁寧にふきとり、鋭く尖つ

恐らく警察からの通報を受けて、自衛隊の処理班も入り、警察官も動員されたが、結局爆弾は見つからなかったようである。翌日より更に金属探知機での探索も行われたようであるが、発見出来なかったようである。警察官が来ていれば、ただちに「手錠をかけて、逮捕すべきではないか」とは私の話を聞いた友人の弁である。その後は発見され、処理された。聞かない。場所が場所だけに、他にも海中や砂丘中に不発弾が眠っている可能性がある。いま射爆場付近は、四輪駆動車が走り回っており、私が歩いた時にも二十数台が来てもつなぐ。危険な爆発物だけに、こんな漂着物はクワバクワバラである。

最近気になる漂着物に発泡スチロールがある。漁具の浮子(フイ)、プラスチック製の丸浮子に代り、魚のトコロ箱や棚にも広く利用されている。安くて、軽く断熱性にとんでいる。ただ、燃やせば真黒な煙が

たちノドを刺激する。そのため焼却するよりは海へ捨てることになる。浮きながら各地に漂着するし、護岸や波消ブロックにあると、砕けて小さな玉状となり、軽いため風に舞い、吹き寄せられて、雪が降ったようにもなる。今、海岸を歩くと、どこも発泡スチロールの浜となっ

ている。護岸のすき間に寄せられているもの、私が通動に通る浜の道路の溝には、吹き寄せられて溝を埋めている。新宮浜の松林の防風柵の内側には、発泡スチロールが溜まっている。現在、直接的な影響は報告されていないが、生物や植物に何等かの影響が出ない心配である。



漂着した爆弾を調べる警察官

一話 (24)
沖ノ島の魅力
樂杏子

荒海安東津の真只中に浮かぶ沖ノ島は、周囲四・三キロ、標高四・三メートルの高な小島である。空から見ると三角形で、正面が扁平な三角形のおにぎりを描いている。何時も、遠くシベリアを根元とする大陸からの強烈な偏西風を吹き寄せられ、波浪は岩肌を削り取るが如くに打ち寄せ、浪風荒い海上に一人たまたま様様にもみられる姿を感ずる島もある。しかし、南面の岩肌の荒々しい急峻さと、北面の緑深い穏やかさとは、人に与える印象を、まったく異にしてしまう島である。

この違った感じを持つ島は、永く日本の歴史の流れと共に歩み息づき、時の流れを見続けている。古代の朝鮮や中国との外交。近世近代に於ける対外防衛線としてなど、常に国家の重大な使命を背び、日本の歴史の中に大きく存在し、深く関わってきた。深く

今では、此の里も狐は出れなくなり、稲葉化の恐れもなくなった。文明の発達には口饅を遠い昔にしてしまふようだ。

一方、おていさんは身体の骨がとけて無くなる奇病にとりつかれてびびりになり、見る目も痛まし、見る目も痛まし、これ又無残な最後であった。善子に來た茂右門さんは地の島より嫁をもらってこれた、橋たけれど、橋は彼自身づく

荒海安東津の真只中に浮かぶ沖ノ島は、周囲四・三キロ、標高四・三メートルの高な小島である。空から見ると三角形で、正面が扁平な三角形のおにぎりを描いている。何時も、遠くシベリアを根元とする大陸からの強烈な偏西風を吹き寄せられ、波浪は岩肌を削り取るが如くに打ち寄せ、浪風荒い海上に一人たまたま様様にもみられる姿を感ずる島もある。しかし、南面の岩肌の荒々しい急峻さと、北面の緑深い穏やかさとは、人に与える印象を、まったく異にしてしまう島である。

この違った感じを持つ島は、永く日本の歴史の流れと共に歩み息づき、時の流れを見続けている。古代の朝鮮や中国との外交。近世近代に於ける対外防衛線としてなど、常に国家の重大な使命を背び、日本の歴史の中に大きく存在し、深く関わってきた。深く

今では、此の里も狐は出れなくなり、稲葉化の恐れもなくなった。文明の発達には口饅を遠い昔にしてしまふようだ。

一方、おていさんは身体の骨がとけて無くなる奇病にとりつかれてびびりになり、見る目も痛まし、見る目も痛まし、これ又無残な最後であった。善子に來た茂右門さんは地の島より嫁をもらってこれた、橋たけれど、橋は彼自身づく



宗像氏の居城、片脇の山裾が低く南に下る所に吹浦と云う静かな平和な十戸許りの部落がある。この部落の中心に稲葉化と呼ばれる草葺きの古びた屋根に赤い煉瓦の長い塀が廻らした約百坪位の屋敷がある。私達の子供の頃は住みつく人もなくて、用事があつて此の屋敷の前を通る時でも足速に黙りこんで走り去つたものである。話は今から九十年前。この家に片川利平と云う五十才過ぎの老漢方医と、おて

たぬ爪をピカピカに光るまで磨き上げ、逞しい羽搏きをして水しぶきを散らす開きの力強さを目を細めて喜ぶのが日課でもあった。或る夜、鳥小屋に入れ、厳重に監視していた筈の五斤程もある開きが無残にも野狐に喰い殺されたのである。憤慨する方ない利平は、忙しい日々の診療の余暇をみては、当時この地方に流行した開きの飼育に凝っていた。朝早く湧り清々しい谷間の真清水を掬ってきては、見事な色彩の艶々しい羽毛を一枚ずつ丁寧にふきとり、鋭く尖つ

たぬ爪をピカピカに光るまで磨き上げ、逞しい羽搏きをして水しぶきを散らす開きの力強さを目を細めて喜ぶのが日課でもあった。或る夜、鳥小屋に入れ、厳重に監視していた筈の五斤程もある開きが無残にも野狐に喰い殺されたのである。憤慨する方ない利平は、忙しい日々の診療の余暇をみては、当時この地方に流行した開きの飼育に凝っていた。朝早く湧り清々しい谷間の真清水を掬ってきては、見事な色彩の艶々しい羽毛を一枚ずつ丁寧にふきとり、鋭く尖つ